

森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業
活動事故 報告書

令和7年7月19日

会長 様

団体名
代表者

事	発生日時	令和 7年 7月 19日 09時 30分ころ			天候	晴		
	発生場所	(薪、原木土場)						
	作業内容	玉切り作業および整理作業						
故	被災者	住所						
		氏名			年齢	73	性別	男
		会員区分	構成員	経験年数	10	特別教育	済	
		装備状況	手袋 - - - -					
		ケガ等の状況	チェーンソーによる切創					
内	事故の型	切れ・こすれ						
	事故概要	チェーンソーによる玉切り作業している近くで被災者は薪の原木(72cm・90cm)の整理作業をしていた。被災者は近くのチェーンソー作業をあまり意識せず原木の整理作業しているなか、近くで玉切り作業しているチェーンソーに触れ、左小指の下部分を殺傷した。						
事故発生後、現在までに執った措置	9:30 事故発生 9:33 チェンソー作業していたメンバーが対処 救急車を要請 9:45 メンバーからの連絡を受け別な場所で作業していた代表被災現場に到着 10:00 救急車到着、メンバーが同行し病院へ 10:30 病院到着 被災者家族に連絡 11:45 処置終わる、19針縫合、骨異常なし 12:15 家族と帰宅 20日、21日は患部消毒等のため病院へ通院 21日以降は自宅近くの病院へ通院する(病院から紹介状)							
事故発生の原因	チェーンソー作業の近くで作業したため							
再発防止対策	事前の作業手順の打ち合わせを行う チェーンソー作業者と十分な距離を保つ							
添付書類	<input type="checkbox"/> 位置図、平面図 <input type="checkbox"/> 被災状況略図 <input type="checkbox"/> 状況写真(被災場所の森林、対象木など) <input type="checkbox"/> その他							

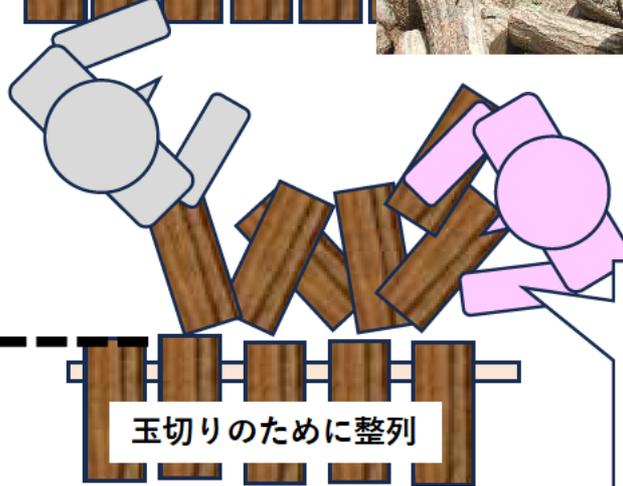
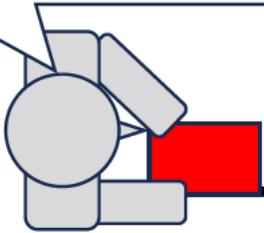
(始業時)



同僚A (加害者)
(役割)
チェーンソーで広葉樹
を薪寸法に玉切り



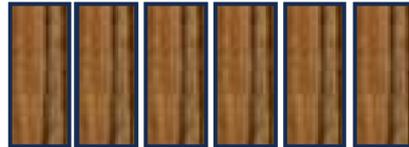
集積場所



玉切りのために整列

被災者、同僚B
(役割)
長さごとに薪の
選別し集積場所
にはい積み

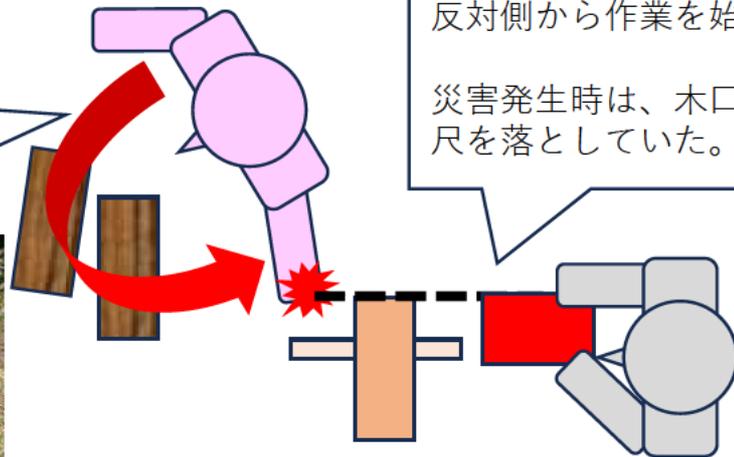
(災害発生時)



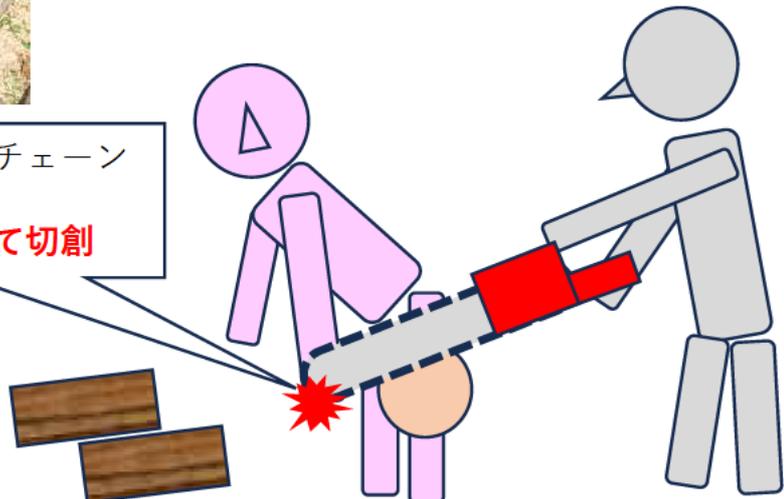
選別に気をとられ、
チェーンソー作業者が
背後にいることを意識
せずに振り返る

ある程度玉切りが進み、
作業の進行方向を変えて
反対側から作業を始める

災害発生時は、木口の余
尺を落としていた。



左手が、作動中のチェー
ンソーに接触。
小指から甲にかけて切創



(ケガの概要)

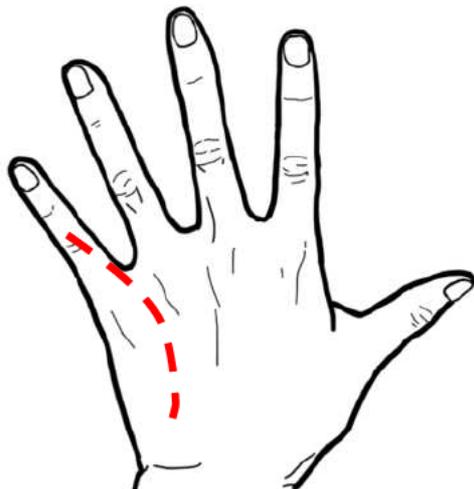
- ・小指第二関節下から、甲にかけて10cmの切創

(処置)

- ・19針縫合、骨異常なし
- ・破傷風予防接種

(経過)

- ・縫合直後、腫れがあったが現在腫れも引き始めている
- ・一週間後で抜糸。現在は3日に1回、消毒とリハビリに通院



(原因と対策)

因子	要因
被災者	<ul style="list-style-type: none">・薪の選別に悩み、他に意識が行かなかった。(考え事をして、注意力が低下していた)・耳栓をしていなかったが、チェーンソーの音にも気が付かなかった。・加害者が背後側に回ったことには気が付いていたが、特に意識しなかった。
加害者	<ul style="list-style-type: none">・被災者が振り向くことを想定していなかった。・他の作業者は移動したことに気が付いていると認識、声掛けはしなかった。・近接作業になっていることを気に留めなかった。
環境	<ul style="list-style-type: none">・被害者は、集積した丸太とチェーンソー作業に挟まれた狭い空間で作業していた。・作業工程の遅れから、作業効率重視に傾いていた。

(対策)

- ・接近作業の回避。接近しない動線配置
- ・作業に集中し過ぎると視野が狭くなる。常に周囲への注意意識を持つ。
- ・開始前に確認するだけでなく、作業中、完了まで常に周囲確認。
- ・やむを得ず距離がとれないときは、トビなどを使い、直接手で触らない工夫が必要。
- ・お互いに声掛けし、位置関係を相互認識する。
- ・近づいたときは、作業を止める。相手任せにしない。